

#

記入欄

1	計画名称	赤外線位置天文観測衛星JASMINE
2	代表者名	鹿野良平
3	代表者所属	国立天文台
4	関連する主な研究者コミュニティ名（あれば）	JASMINE Consortium, 光学赤外線天文連絡会
5	現在の計画のステータス	概念検討フェーズ
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	製作、打ち上げ、運用、データ解析
7	計画のScience Goal (計画の核心をなす学術的問い)	我々が住む天の川銀河の形成と進化の探究とともに、生命居住可能領域に存在する地球に似た系外惑星の探究を行う。
8	計画のScientific objectives (計画の研究目的)	SO1:【銀河系中心核構造の解明】恒星の距離と運動を測定することにより、銀河系形成の鍵を握る銀河系中心核構造を明らかにする。 SO2:【地球型系外惑星の探査】時系列測光観測により、将来の生命探査に有望な恒星に対し、生命居住可能領域に存在し、大気観測を行うことのできる地球型系外惑星の有無を明らかにする。
9	計画が実施するScience investigations (何をどこまで明らかにしようとするか)	銀河系中心核領域の方向において観測した恒星の天球面上の位置変動の時系列データおよびそこから導出される恒星の年周視差、固有運動といった物理情報を位置天文データカタログとして作成し、公開する。 中期M型星の測光観測を行い、時系列測光データを公開する。
10	計画の実施期間（既存の計画の場合は過去の期間も含む）	2009～2033
11	計画全体の予算規模（総額、もしくは年度毎の額）	～150億円(但し、JAXA負担の開発費(打上げ・運用・データ解析費用を含む))
12	上記の中で期待する国立天文台の資金（総額、もしくは年度毎の額）	～1.7億円/年(但し、上記に含まれない人件費の国立天文台分)
13	国立天文台に期待する役割	観測装置開発(JASMINEプロジェクト、先端技術センター); 観測装置試験検証(JASMINEプロジェクト、先端技術センター); データ解析ツール開発(JASMINEプロジェクト、天文データセンター); データカタログ公開(JASMINEプロジェクト、天文データセンター); 位置天文観測研究のリード(JASMINEプロジェクト)
14	資金調達方針 (5種類から数字で選択)	4
	1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費, 2. 運営費交付金 (既存計画, 新規計画の検討活動・基礎的開発を含む), 3. 新規 大規模学術フロンティア促進事業への提案, 4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学や JAXA 宇宙研)予算, 5. 外部資金あるいは競争的資金	
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表 (画像を添付)	(次頁)

